

会議録

会議録	平成27年度 第4回豊田市公共交通会議
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>【協議案件】</p> <p>(1) 基幹バスの路線改編について</p> <ul style="list-style-type: none">◆ (仮) 土橋・豊田東環状線◆ 稲武・足助線 <p>(2) 基幹バスの運賃体系について</p> <p>(3) 基幹バスのバス停移設について</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 小原・豊田線◆ 藤岡・豊田線 (西中山経由)◆ 藤岡・豊田線 (加納経由)◆ 保見・豊田線 <p>(4) 地域バスの路線改編等について</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 小原地域バス <p>(5) 地域公共交通確保維持改善事業に関する評価について</p> <p>(6) 豊田市公共交通基本計画の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 目標値・個別施策ほか <p>【報告案件】</p> <p>(1) 地域バスの路線改編について</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 下山地域バス <p>(2) 平成27年度バスの利用状況について</p>

	<p>(3) バス運行事業者選定について</p> <p>(4) 名古屋 COI 拠点事業「足助プロジェクトにおける実証実験」について</p> <p>4 その他 次回、会議の開催予定について</p> <p>5 閉 会</p>
日 時	平成27年12月25日(金) 10:00~12:30
場 所	豊田市役所 南庁舎7階 南73委員会室
出席者 (敬称略)	<p>【委員】 野田 宏治 (豊田工業高等専門学校) 荻野 弘 (豊田工業高等専門学校) 古橋 靖弘 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)(代理:白木) 小久保 信 (愛知県振興部交通対策課)(代理:小林) 高嶋 敏博 (愛知県豊田加茂建設事務所) 庄田 元久 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所) 近藤 直人 (豊田市都市整備部) 小澤 伸也 (社会福祉法人豊田市社会福祉協議会) 阿羅 勝彦 (豊田市区長会) 二宮 京市 (豊田市高齢者クラブ連合会) 澤田 恵美子 (豊田市消費者グループ連絡会) 町田 利雄 (豊田市PTA連絡協議会) 土居 友二 (豊田商工会議所) 加藤 憲治 (愛知県タクシー協会) 大久保 彰 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会)(代理:田村) 今川 孝英 (名古屋鉄道株式会社) 近藤 博之 (名鉄バス株式会社)(代理:加藤) 境 政義 (豊栄交通株式会社) 安達 雄彦 (愛知環状鉄道株式会社)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資 料	<p>1. 次第</p> <p>2. 資料1~9:豊田市公共交通会議 平成27年度第4回会議資料</p> <p>3. 当日配布資料(資料5, 6, 8, 差替え資料1・4の一部, 名大配付資料9)</p>

(要約)

3 議事

【協議案件】

(1) 基幹バスの路線改編について

◆ (仮) 土橋・豊田東環状線

- 事務局 資料1に基づき説明。
- 委員 路線統合することにより、「三河豊田駅前」など途中のバス停止まりの便と利用が混乱しないように、注意すべきと考えるがどうか。
- 事務局 これまでと同様にわかりやすいPRを行っていく。

<協議結果：全員賛成>

◆ 稲武・足助線

- 事務局 資料1に基づき説明。
- 委員 今後、同様の特急便を他の地区でも実施したり、他のバス停でも停車し、一般便と乗り継ぐような運行を想定しているか。
- 事務局 本路線では高校通学者を主な対象としており、なるべく乗車時間が短くなるように直行便を設定した。このため一般便と乗り継ぐような途中バス停での停車は現状では考えていない。また、他の路線での実施も当面考えていない。
- 委員 直行便の定期券を持っていれば、一般便の乗り継ぎでの利用も出来るのか。
- 事務局 可能である。
- 委員 乗車が長時間にわたるため、トイレ休憩なども考慮して欲しい。
- 事務局 検討する。

<協議結果：全員賛成>

(2) 基幹バスの運賃体系について

- 事務局 資料2に基づき説明。

<協議結果：全員賛成>

(3) 基幹バスのバス停移設について

◆ 小原・豊田線

◆ 藤岡・豊田線 (西中山経由)

◆ 藤岡・豊田線 (加納経由)

◆ 保見・豊田線

- 事務局 資料3に基づき説明。
- 委員 ふかみ台団地のバス停については、カーブが近くなるが安全性は確保でき

るか。

- 事務局 公安委員会との協議の結果、安全上、問題ないと回答を得ている。
- 委員 猿投北交流館西バス停は移設によって、法面側のガードパイプがなくなるようだが、安全上問題ないか。
- 事務局 現場で高低差等を見たとうえで、ガードパイプの設置必要性について検討したい。

<協議結果：全員賛成>

(4) 地域バスの路線改編等について

◆小原地域バス

- 事務局 資料4に基づき説明。

<協議結果：全員賛成>

(5) 地域公共交通確保維持改善事業に関する評価について

- 事務局 資料5に基づき説明。
- 委員 資料の細かい点は、愛知運輸支局と事務局で精査していくのでご承知おき願う。
- 委員 運行事業者のモチベーションを高めるために何か行っているか。
- 事務局 地域バスの運営協議会に参加してもらい、意見を反映している。
- 委員 人口が減少していく中で、数値目標を見直す必要があるのではないか。
- 事務局 公共交通基本計画の見直しの中で、地域が目標を設定する仕組みを検討している。

<協議結果：全員賛成>

(6) 豊田市公共交通基本計画の見直しについて

◆目標値・個別施策ほか

- 事務局 資料6に基づき説明。
- 委員 目標値の毎年2%増は難しいように思う。人口減少ほか経済状況にも左右される。
- 事務局 居住誘導、ネットワークの質向上、カバー率の向上などによって達成したいと考えている。
- 委員 参考資料の目標値や基準年と、資料1ページの数字が異なるのはなぜか。
- 事務局 施策の積み上げによる数値を精査した結果、資料1ページの数値となった。基準年は今回、案として出している。
- 委員 基本方針③の評価指標について、選択できない人やアンケートに答えられない人もいるので、生活の質を高めるという観点からの指標としてはどう

か。数値を高めるためにサービスレベルが下がると困る人が出てくる。

- 事務局 数値は目安であり、サービスレベルは維持することが大前提である。
- 委員 運行事業者の人員不足や車両の確保など一事業者だけでは達成困難なこともあるので、関係機関での協力が不可欠だと思う。
- 事務局 関係機関での協力のもと、目標達成を目指したい。
- 委員 市民1人あたり負担額2,000円までとしているが、市民が理解できる値なのか。
- 事務局 アンケート等で把握しているわけではないが、今まで1,500円というのを一つの基準にしてきた。人件費の高騰等により運行経費の上昇が生じているため、2,000円を基準にしようと考えている。
- 委員 他の自治体と比べて、この目標値は妥当なのか。
- 事務局 他の自治体とは事情がそれぞれ違うので単純に比較できないと考えている。
- 委員 市民1人あたり2,000円という数値を市民に理解してもらうための取組が必要ではないか。
- 事務局 路線の新設・改編などの場合は地域に十分に説明を行うことを予定している。
- 委員 計画の中身について市民に十分に周知をしてもらいたい。また、10年間と長期の計画であるので、中間評価が必要ではないか。
- 事務局 5年目に中間評価と見直しを予定している。
- 委員 若い世代が市外に流出しないようにするというのを、居住誘導の施策の際には考慮して欲しい。

<協議結果：全員賛成>

【報告案件】

(1) 地域バスの路線改編について

◆下山地域バス

- 事務局 資料7に基づき説明。
- 意見等なし。

(2) 平成27年度バスの利用状況について

- 事務局 資料8に基づき説明。
- 委員 中心市街地玄関口バスの利用が激減しているのはどうしてか。
- 事務局 イオン豊田店の閉店に伴って利用が減少した結果である。推移を見つつ、必要に応じて実態に応じたダイヤ改正等も検討したい。

(3) バス運行事業者選定について

- 事務局 説明。
- 意見等なし。

(4) 名古屋 COI 拠点事業「足助プロジェクトにおける実証実験」

- 名古屋大学 資料9に基づき説明。
- 委員 これに続くプロジェクトの予定はあるのか。
- 名古屋大学 継続できるような形で続けていきたい。
- 委員 無償運行とのことだが、タクシーとの競合について配慮願いたい。足助地区だけでとどまっているうちはよいが、将来的に都市部まで広がるとなると問題。
- 名古屋大学 中山間地域での見守り、お出かけと一体となった取組であり、拡大していくことは想定していない。
- 委員 無償運行であっても、安全安心の確保が重要であることを十分認識していただきたい。

4 その他

- 事務局 次回会議は平成28年2月10日に開催を予定している。

以上